

<第52回調査>

2013年09月30日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2013年09月17日(火)13:00~2013年09月24日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は637件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

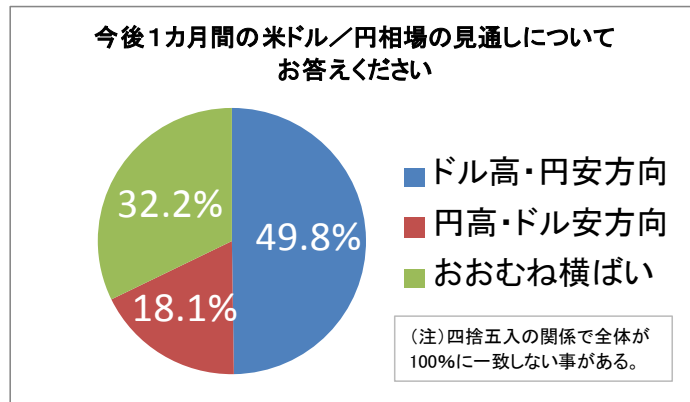
Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第52回調査結果略報：米ドル強気派が半数近くに増加】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

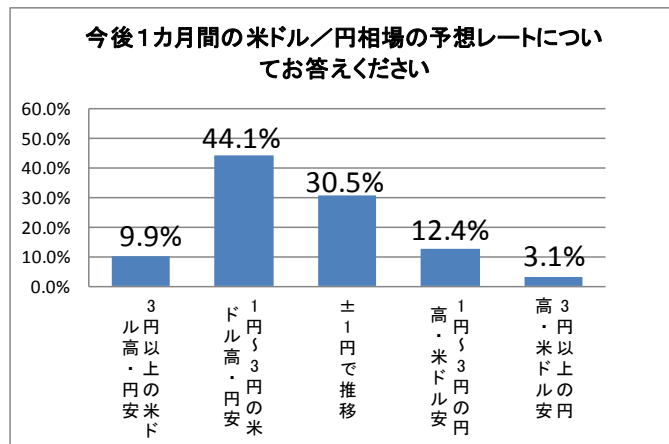
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が49.8%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は18.1%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+31.7ポイントとなり、+21.0%ポイントとなった前回からプラス幅が拡大した。調査期間中の米ドル/円相場は、「9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)にて量的緩和第3弾(QE3)縮小が開始される」との市場予想に反し、FOMCが金融政策の据え置きを決定したことを受けて急落するも、翌日には切り返すなど、値動きの荒い展開となった。ただ、年内にはQE3の縮小が開始されるとの見通しは維持されており、これがFX投資家の「ドル高・円安方向」という予想に繋がったものと見る。

※過去の 米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が44.1%と最も多く、「±1円で推移」が30.5%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は12.4%、「3円以上の米ドル高・円安」は9.9%、「3円以上の円高・米ドル安」は3.1%という順となった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安寄りに傾いており、問1の結果と整合的といえるだろう。特徴としては、前月に続き、穏やかな上昇を見込む向きが多いという点であろう。「1円～3円の米ドル高・円安」と「±1円で推移」に、合計で74.6%の回答が集まっており、FX投資家の米ドル/円の予想コアレンジは、おおよそ97.83円～101.83円と考えられる。



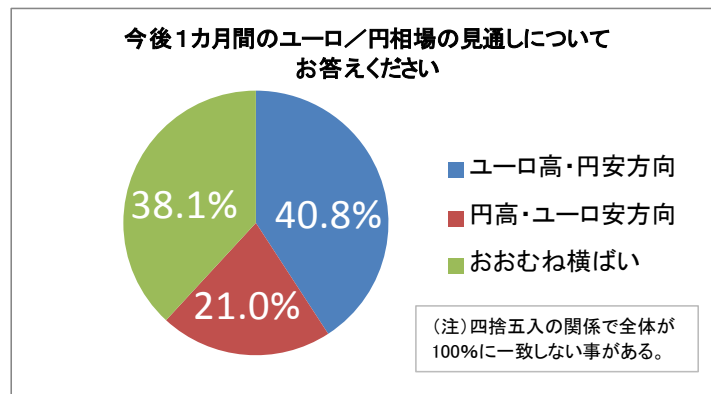
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が40.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が21.0%となった。この結果「ユーロ円予想DIは+19.8%ポイント」となり、前月(+6.6%ポイント)からプラス幅を拡大した。調査期間中のユーロ/円相場は、19日に大きめにユーロ高・円安が進んだ後に上げ幅を縮小するなど、明確な方向感が出なかった。とはいえ、下値を切り上げて行く流れ自体は維持されており、これがこのアンケート結果に繋がったものと考えられる。

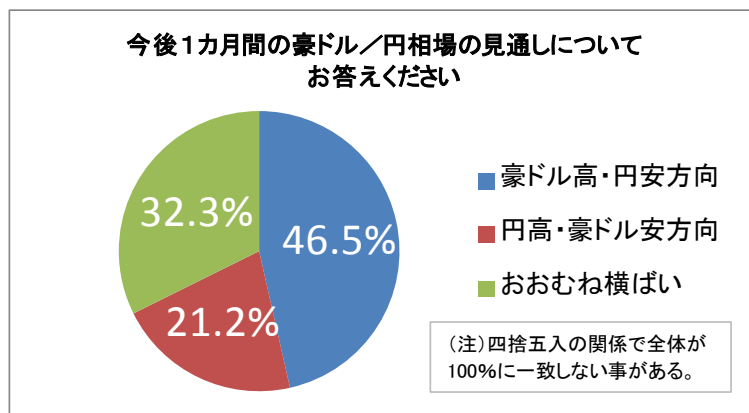
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が46.5%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は21.2%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+25.3%ポイントと、前月(+3.0%ポイント)から大幅にプラス幅を拡大する結果となった。調査期間中の豪ドル/円相場は、92円台前半から94円台前半まで上昇した後に上げ幅を縮小する、大きな方向感に乏しい展開だった。しかし、9月トータルで考えると、87円台から94円台へ大幅に豪ドル高・円安が進んでおり、これが豪ドル強気見通しを後押しした可能性がある。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

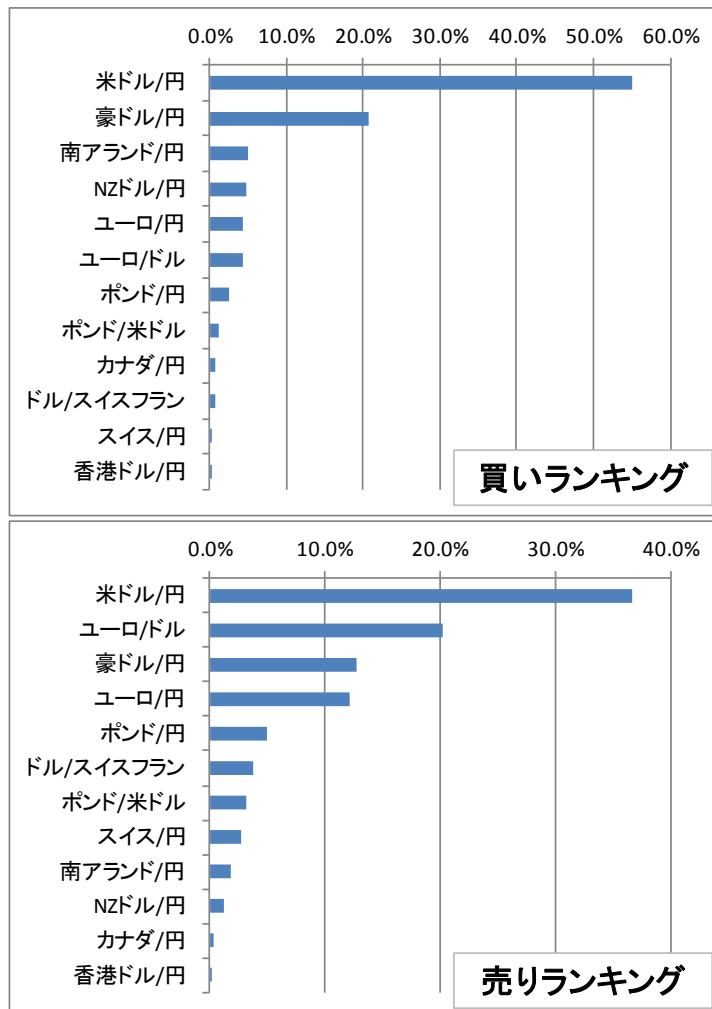


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(55.1%)、2位豪ドル/円(20.7%)、3位南アランド/円(5.0%)、4位NZドル/円(4.9%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(36.7%)、2位ユーロ/ドル(20.3%)、3位豪ドル/円(12.7%)、4位ユーロ/円(12.1%)、となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が引き続き2位以下に大差を付けてトップの座をキープした。順位については3位以下の順位が大きく入れ替わっている。8月に大きく下げた反動で戻りが見られる南アランド/円やNZドル/円に注目する向きが増えたと同時に、前月は3位だったユーロ/円(前回:5.9%)を買いで注目する向きが減少した点が大きかったようだ。一方、「売り」で注目の通貨ペアでも、やはり米ドル/円に注目が集まった。FX投資家の米ドル/円に対する関心は、売買両面で高いと言える。また、豪ドル/円は前月(2位、20.1%)から順位を下げっており、前月と比べて強気見通しのFX投資家の割合が増えた問4の調査結果と整合性が取れている。

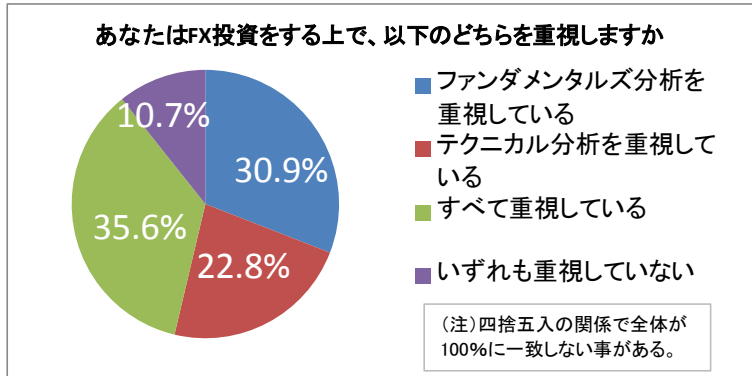


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

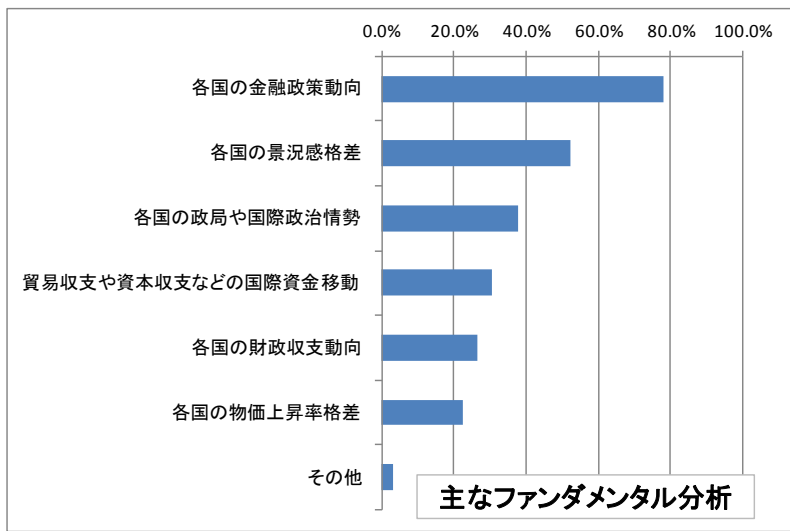
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が30.9%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が22.8%、「すべて重視している」が35.6%という回答割合であった。前回調査の結果と比べて投票割合のバランスに大きな相違点はないが、「テクニカル分析重視」派が、やや「全て重視」派へシフトしている様子が見受けられる。調査期間中の相場は方向感に乏しく、テクニカル指標が機能しにくくなっている様相も見受けられたことから、テクニカル分析以外の材料にも手掛かりを求める動きが出た可能性がある。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか？(いくつでも)

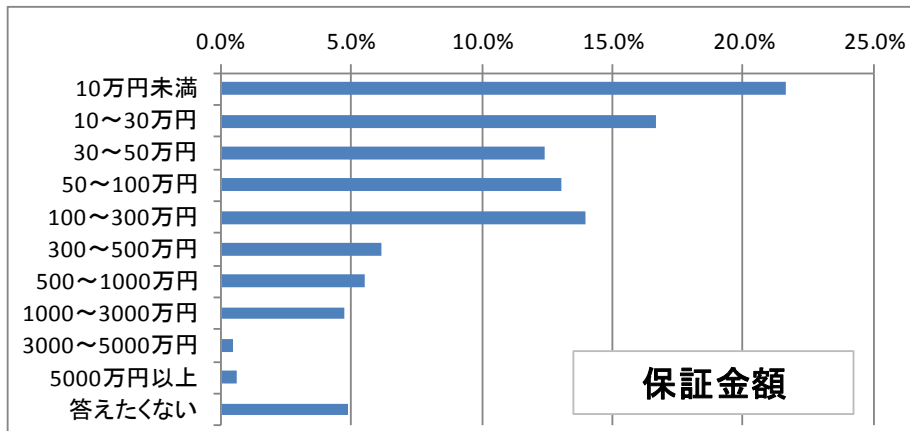
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(77.4%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(45.7%)」、「各国の政局や国際政治情勢(43.5%)」、「各国の財政収支動向(29.7%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(22.6%)」、「各国の物価上昇率格差(21.3%)」の順に続いた。依然として「各国の金融政策動向」が圧倒的な回答割合を集めている。引き続き米国の量的緩和第3弾(QE3)の縮小が為替市場のメイン・テーマとなっていることがこの結果に反映されていると考えられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。
Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

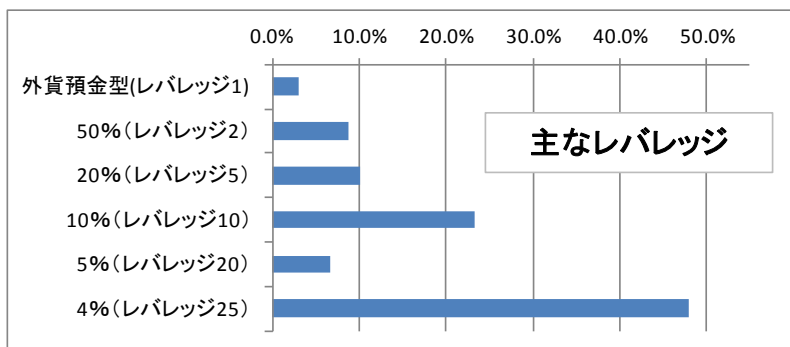
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が21.7%と最も多く、以下「10～30万円(16.6%)」、「100～300万円(14.0%)」、「50～100万円(13.0%)」、「30～50万円(12.4%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引をする層の割合が前月から低下(67.8%→63.7%)した一方、100万円以上の保証金で取引していると回答した割合が上昇している。特に「500万円以上」と答えた合算割合は11.3%にも上り、8.6%だった前回調査から回答割合が増加した。日本の法人税率引き下げ見通しなど、アベノミクス期待→株高・円安期待が強まる中、全体的に保証金額を増やす動きになっている可能性がある。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

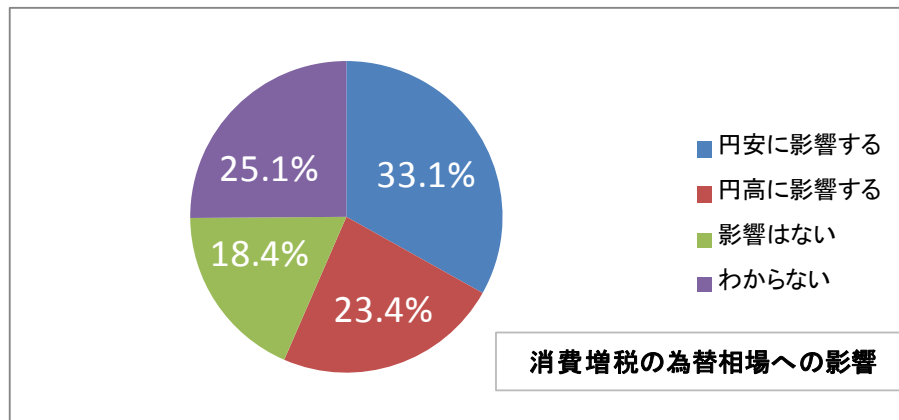
「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が47.9%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が23.4%、「20%(レバレッジ5)」が10.2%と続き、以下「50%(レバレッジ2)」が8.8%、「5%(レバレッジ20)」が6.6%と続いた。最大レバレッジである4%(25倍)を主に活用する向きが半数近くを占めており、順位も回答割合も前回調査とほぼ同様の結果となった。小額の保証金を可能な限りの最大レバレッジで膨らませるという、FX投資家のスタンダードな取引スタイルは維持されているようだ。なお、今回の調査に回答を寄せたFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は16.3倍と、前回調査と変わらず、という結果になった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

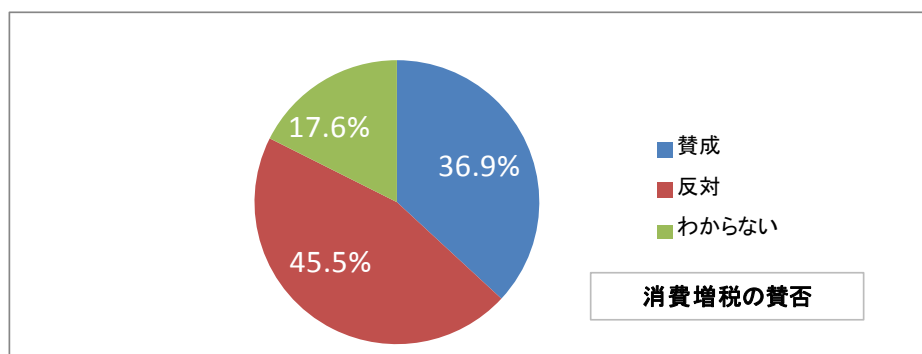
問10: 2014年4月から予定通り消費増税が実施された場合、為替相場へはどのような影響があると思われますか？

今月の特別質問項目として「2014年4月から予定通り消費増税が実施された場合、為替相場へはどのような影響があると思われますか？」と尋ねたところ、「円安に影響する(33.1%)」が最も多く、僅差で「わからない(25.1%)」が続き、次いで「円高に影響する(23.4%)」、「影響はない(18.4%)」という順になった。また、その理由を自由記述方式で尋ねたところ、円安に影響すると見ているFX投資家からは「消費税増税によってアベノミクスが強化されればインフレが進み、円安になる」との声が目立った。一方、円高に影響すると見ているFX投資家からは「消費増税によって景気が悪化→株安・円高」との声が集まった。なお、「影響はない」と見るFX投資家については「すでに織り込み済みだから」との意見が多かった。



問11: 今回の消費増税について、賛成か反対かをお伺いします。

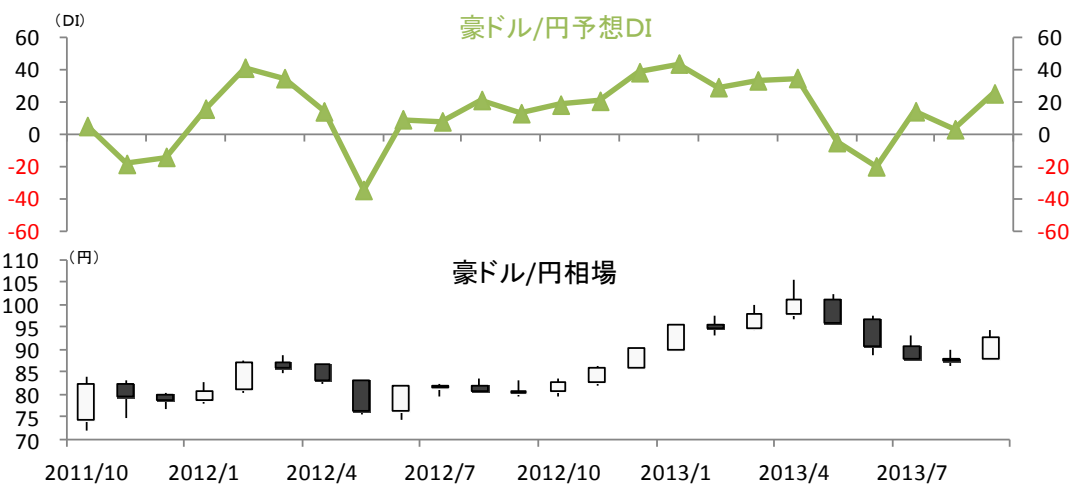
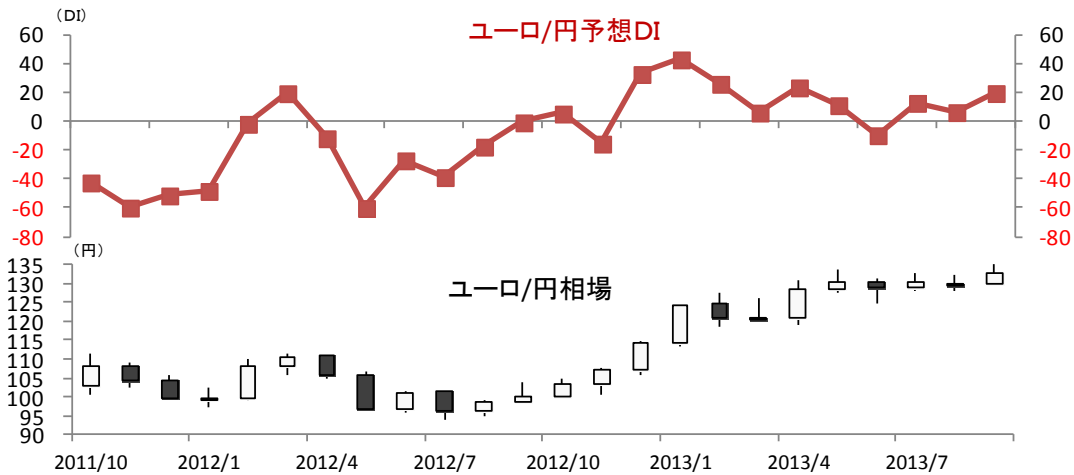
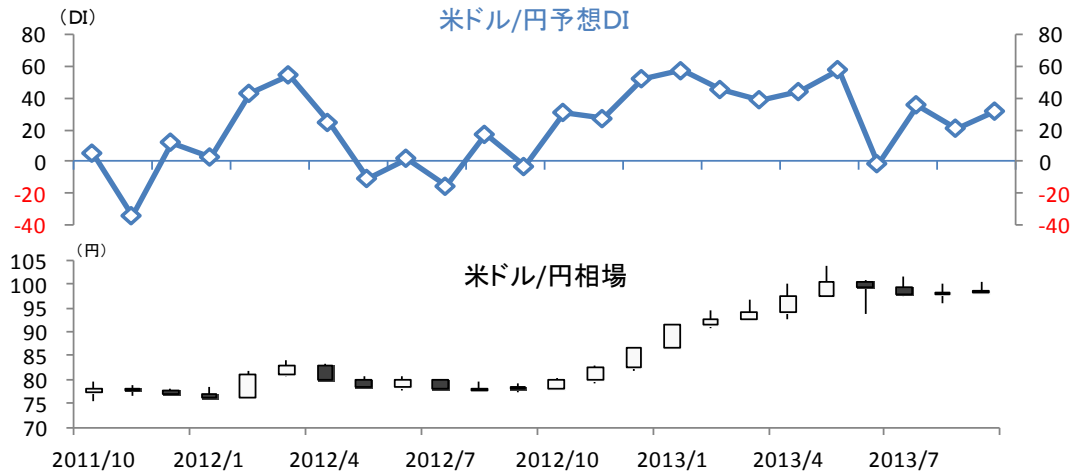
今月のもうひとつの特別質問項目として「今回の消費増税について、賛成か反対かをお伺いします」と尋ねたところ、「反対(45.5%)」、「賛成(36.9%)」と、消費税の増税については反対する声の方がより多く集まった。ただし、「反対」と回答した割合にしても過半数には届いておらず、FX投資家の意見は割れている、と見ることもできる。なお、共同通信が9月14-15日に行った世論調査によると、消費増税については賛成46.8%、反対50.0%との結果になっている。今回の外為短観での調査におけるFX投資家の傾向と共同通信の調査を比較すると、大きな差は見受けられない。問10でも意見が割れる結果となったが、消費増税についての日本国民の見解はまとまりを見せないまま安倍首相の発表を待つこととなりそうだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第51回目となりました。調査開始から4年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com